【乳汁検査まとめ】

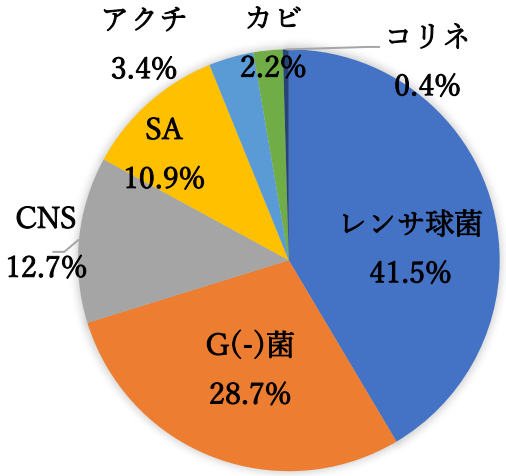
先月に引続き、2025 年上半期（1 月～6 月）に弊社で検査した乳汁検査について報告します。

	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン Na ビクシリン	ー
Cz	セファゾリン注	セファメジン
ERFX	バイトリル 10%	ー
K	カナマイシン	タイニーPK
ST	トリオプリン	ー
T	OTC 注	OTC 軟膏

表 1 略語、薬品対応表

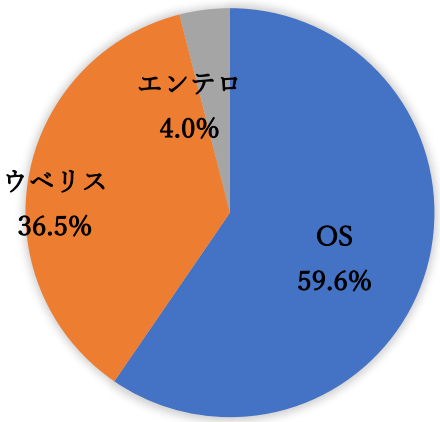
2025 年上半期で実施された乳汁検査では、延べ検査頭数 793 頭、延べ検査分房数 1065 分房でした(重複含む)。この中で菌の生えたものは 61.0%、菌の生えなかったものは 32.5%、雑菌は 6.5%でした。

菌の生えたものの内訳は、レンサ球菌（OS、ウベリス、エンテロコッカス）が最も多く 41.5%で、次いでグラム陰性菌(大腸菌、クレブシエラ、緑膿菌、その他の大腸菌群が 28.7%で、CNS が 12.7%、SA が 10.9%でした。(グラフ 1)



グラフ 1　乳房炎原因菌割合

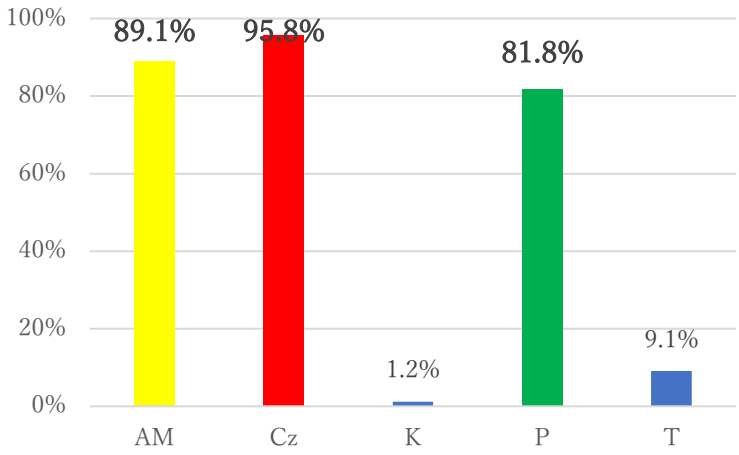
グラム陰性菌を G（-）菌、酵母様真菌をカビ、アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネと表記



グラフ 2　レンサ球菌割合

OS59.6%、次いでウベリスが 36.5%、エンテロコッカスが 4.0%となりました。

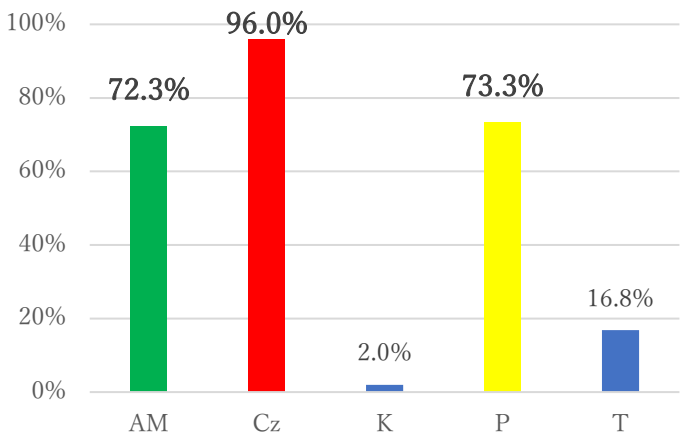
エンテロコッカスをエンテロと表記



グラフ 3　OS 感受性割合

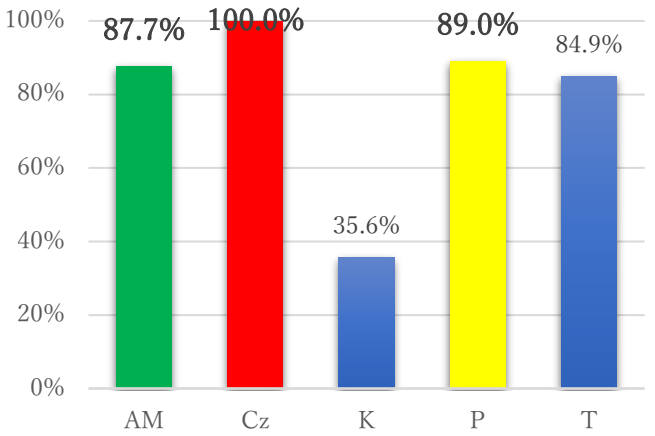
Cz（セファゾリン注・セファメジン）、AM（アンピシリン Na・ビクシリン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ)の感受性割合が高く、Cz（セファゾリン注・セファメジン）は感受性割合 95%を、AM（アンピシリン Na・ビクシリン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）も感受性割合 80%を超えています。T（OTC 注・OTC 軟膏）は感受性割合 9.1%と低い結果となりました。

Total Herd Management Service



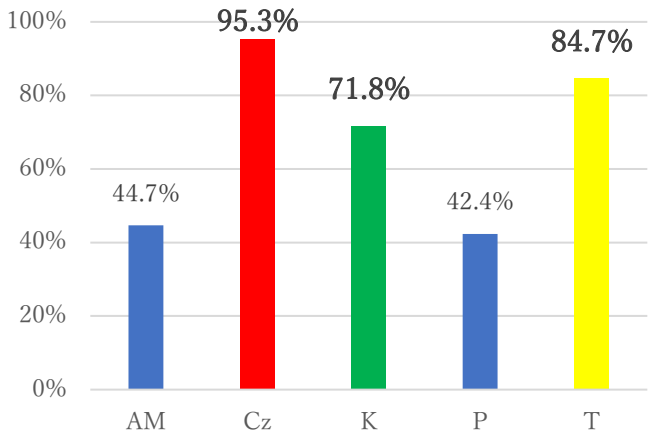
グラフ４　ウベリス感受性割合

OS 同様に Cz(セファゾリン注･セファメジン)･、P（ペニシリン・ニューサルマイ）、AM（アンピシリン Na・ビクシリン）の感受性割合が高い結果となりました。T（OTC 注・OTC 軟膏）も 16.8%と OS 同様に低い結果となりました。



グラフ５　SA 感受性割合

感受性割合は Cz(セファゾリン注･セファメジン)、P（ペニシリン・ニューサルマイ）、AM（アンピシリン Na・ビクシリン）が高く、Cz（セファゾリン注・セファメジン）は感受性割合 100%となっています。P（ペニシリン・ニューサルマイ）、AM（アンピシリン Na・ビクシリン）、T(OTC 注・OTC 軟膏)も感受性割合 80%以上となっています。



グラフ６　CNS 感受性割合

感受性割合の上位 3 つは Cz（セファゾリン注・セファメジン）、T(OTC 注・OTC 軟膏)、K（カナマイシン・タイニーPK）となりました。SA で感受性割合の高かった AM（アンピシリン Na・ビクシリン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）はどちらも感受性割合 50%を下回る結果となりました。

終わりに

今回の結果では、グラム陽性菌には Cz（セファゾリン注・セファメジン）が効いていることが多いことが分かりました。グラム陰性菌（大腸菌や大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌等）でないことが判明したら、多くの場合において軟膏を Cz（セファゾリン注・セファメジン）に切り替えて問題ないように感じます。

また、OS、ウベリス、SA において Cz（セファゾリン注･セファメジン）、AM（アンピシリン Na・ビクシリン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）の感受性割合が高いのに対して、CNS では Cz（セファゾリン注・セファメジン）、T(OTC 注・OTC 軟膏)、K（カナマイシン・タイニーPK）となりました。CNS の感受性割合は他のグラム陽性菌と比べてバラつきが出ることが多い印象です。

全ての乳房炎を検査し、感受性薬剤で治療することが基本です。特に、治りの悪い乳房炎に対しては、乳汁検査を実施し、感受性薬品での適切な治療を行いましょう。乳房炎が増加してくる季節です。無駄のない治療を心がけましょう。

富田

Total Herd Management Service